

5/27(土) まいど! 倫理号です。花にいくつも(1)の山ぼし思いつても(2)降(り)ま(す) 耳(か)い(い)し(な)け(い)ば(い)け(な)い(の)か、大(お)神(かみ)様(さま)に(お)祈(いの)り(を)し(て)お(ま)か(な)。

今週の倫理 1031号 幸運ぶお鳥 2017.5.27 ~ 6.2

人様の糸が上手に話(はな)す(の)も(い)い(か)す(の)。
上手に聴(き)け(な)り(な)。

七日目の「ハイ」



え・浅妻健司

五月のテーマ
聞き方話し方

Tさんが純粹倫理を学ぶようになったのは、昭和51年、

25歳の時でした。知人の紹介で、家庭倫理の会が主催する「おはよう倫理塾」(当時の名称は「朝の集い」)に足を運んだのです。

初めて参加した日、「おはようございます」 「ようこそいらっしやいました」と、先輩会員が明るい笑顔で声をかけてくれました。Tさんは面食らいながらも、その歓迎を嬉しく思いました。

開始前、初参加であるTさんに、役員が「おはよう倫理塾」の流れを説明してくれました。その中で、『万人幸福の葉』の輪読についての話がありました。

「誰が読んでもいいのです。Tさんも『ハイ』と言って読んでもいいのですよ」

そう言われたものの、Tさんは(とても無理だ)と思いました。当時のTさんは、絵に描いたような引っ込み思案だったからです。親友と呼べるような人は一人もいません。極度なアガリ症で、話しベタだったため、人が大勢いる中

での朗読など、とてもできなかったのです。

「おはよう倫理塾」には二日、三日と続けて参加しましたが、「ハイ」の一言がなかなか出ません。(次は返事をしよう)と思うものの、喉の途中で声が詰まって、声にならないのです。

一週間ほど経った頃、役員の一人在、一番後ろに座っているTさんの隣に座りました。その役員は、Tさんにぜひ一度輪読してもらいたいと思っていました。

「大丈夫、読んでごらんよ」と声をかけられ、「ハイ」と返事ができたTさん。ついに「葉」を読むことができたのです。

読み終えた後、Tさんはしばらく震えが止まりませんでした。それは緊張からくる震えであり、(自分も読むことができた)という喜びの震えでもありました。

その日を境にして、連日「葉」が読めるようになったのです。

*

現在は、経営者モーニングセミナーに通っているTさん。人前で

話す機会も多くありますが、子供の頃のことをこう述懐します。

「小学校の頃、叔父がわが家に来た時、父から『叔父さんに挨拶をするように』と言われました。でも、叔父の目の前に行つたものの、『こんにちわ』の一言が出てこなかったのです。父親からは、「しつかりせんか!」と叱られました。やがて人前で話すことを避けるようになり、いつしか(話しベタ)というレッテルを自分に貼るようになっていました」

そんなTさんにとって、転機となったのが、「おはよう倫理塾」だったのです。「葉」の輪読は、声を出す格好のトレーニングになりました。また、積極性も養われるようになって、話すことへの苦手意識が払拭されてきたのでした。

Tさんの現在の口癖は、「足を運ぶは、幸せ運ぶ」です。毎朝会場に足を運んで、七日目によく「ハイ」と言えた自身の体験がベースとなって、「行動するところから道は拓ける」という信念が培われたのです。